

シリーズ 病気のお話し<17>

最近の全身麻酔について

麻酔科部長 武井 純二 先生

手術前の麻酔の説明の時、患者さんから麻酔から覚めないことがあられるのかと聞かれることがあ

る。手術中に長時間の低血圧や、低酸素状態が続くかもしれない限り、全身麻酔からはまず間違いなく覚めるので安心していただき

たい。ただ、全身麻酔の薬を多めに投与した場合

は麻酔科医になって20年ほど経つが、20年前は今と比べて早く覚める麻酔薬は少なかった。特に注射薬は作用時間の長いものが多い。

私は麻酔科医になって20年ほど経つが、20年前は今と比べて早く覚める麻酔薬は少なかった。特に注射薬は作用時間の長いものが多い。

のほとんどだった。長時間の手術の時は麻酔から覚めるのに30分以上かかることも多かった。その後、徐々に作用時間の短い麻酔薬が開発されてきた。今年発売になった痛み止めの薬は作用時間が特に短く、作用が10分ほどで切れてしまう。現在はこの薬を中心に全身麻酔を行うことが多くなった。この薬と眠らせる薬を少量、必要に応じて筋力を低下させる薬を使って麻酔をかけている。

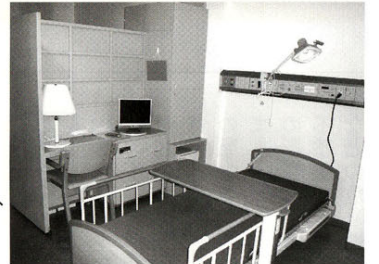
最近では、麻酔薬の投与をやめると10分以内で麻酔から覚めることがほとんどである。ただ、麻酔から覚めた時点で麻酔薬の影響が多少残っているの

「準個室ユニット」の導入について

経営企画課係長 中川 倫明

当院では、患者様に少しでもより快適な療養環境を提供したいと考え、この度病棟の4床室4室の改修工事を行い、10月1日より準個室ユニット4室16床を導入しました。

「準個室ユニット」とは、従来カーテンで仕切られていた多床室の個人スペースを、据置型の多機能パネルや家具で間仕切り、個室に近い空間を実現するというものです。同時に、液晶テレビや冷蔵庫、個別照明、採光パネル、小物入れなどに加えて、インターネット環境も標準仕様として完備しています。これにより入院患者様のプライバシーの確保はもとより、日常生活の延長のように快適で機能も充実し、患者様が安心して療養できる環境を提供するシステムです。



病院のサービスには、医師や看護師、コメディカルが一体となってレベルの高い安心安全な医療を提供するという目的と患者様の自然治癒力を高められるような快適で落ち着いた環境を提供するという目的があります。実際アメリカでも療養環境を改善させたことにより、平均在院日数の減少、沈痛剤、眠剤投与の減少例等が報告されているようです。更に患者様中心の医療実現に向けて、病院に求められるものも多様化しています。特に医療・アメニティの両面におけるサービス向上は最重要なテーマであり、患者様アンケートにおいても常に上位を占めているのが現状です。これらのテーマを実現していくため今後も当院では、患者様が安らいだ気持ちを持つことができる環境であるか、望まれている快適さとは何かを絶えず検証、追求し、患者様の一日も早いご快癒に貢献できるよう質の良い療養環境づくりに取り組んで参ります。「準個室ユニット」は、患者様のご意見を頂きながら、改善し、漸次増床していく予定ですので、よろしくお願い致します。

NST

って何？

循環器科部長 岸本 憲明
管理栄養士 秋林 千尋

すべての病気は、栄養管理をおろそかにすると治療効果が十分にみられず、かえって合併症や副作用の頻度が高くなってしまう。また、栄養状態が悪いと床ずれができたり、食べ物を上手に飲み込めず、肺炎を起こしたりしてしまいます。

ところで、皆さまは「NST」という言葉を耳にされたことありますか？これは「Nutrition Support Team」の頭文字をとった略語です。実態は何か？というと、患者様1人1人が過不足なく適切な栄養状態を維持できるように、担当医だけでなく院内の様々な医療スタッフが協力して、栄養管理をサポートさせていただくチーム医療のことを意味します。

このようなチームは約40年前にアメリカで誕生したのですが、日本に導入されたのは二〇〇一年と最近のことです。その後全国の病院で次々と設立され現在では600以上の施設でNSTによる栄養管理支援が行なわれています。

当院では昨年より本格的なサポートを始めました。チェアマンの小田内科部長が引っ張るチームには他に循環器科、歯科口腔外科、形成外科、耳鼻咽喉科、

リハビリテーション科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科医師が、コメディカルからは管理栄養士、薬剤師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、言語聴覚士、医事課職員で構成されており、具体的な支援内容には患者様の食事摂取状態や点滴などによる栄養状態の把握、腕周りや皮下脂肪の計測による身体状況の観察、病状に応じた必要栄養量を計算し、栄養摂取方法や具体的食事内容のアドバイス、口腔内ケアのプラン作成や飲み込みに対する判定の必要性などについてのアドバイスをしていただいております。栄養に関する様々な事に關して、主治医や担当医から気軽に栄養に関する質問・疑問に答えるコンサルテーション業務を行なう他、栄養管理が難しいと思われるケースにはNSTが病棟回診によりチームで直接患者様を見させていただき、問題点の検討や対策の考案を行っております。回診時には「栄養に関するお手伝い」をさせていただく為、病棟へ大勢のスタッフが邪魔な感じがするかもしれませんが、ご迷惑がなければ幸いです。また、本年度より生活習慣関連病対策にも取り組み始めました。睡眠時無呼吸症候群などの原因に代表される高度な肥満の方々を対象にNSTと看護部療養サポート室が連携して、肥満管理サポートを始めました。現在のところ数名の支援をさせていただいており、順調に減量や体脂肪減少の成果がみられているようです。さらに、来年早々の開始を目標に、院内の糖尿病療養指導士有資格者や内科病棟看護師、看護部療養サポート室とも協力して、入院から外来に継続・連携できるような質の高

い糖尿病治療支援対策を現在準備中です。このように栄養不足や過剰栄養の状態にある患者様1人1人に対して、当院がもつ全ての英知を結集し、少しでも皆様のお役に立てるように、NSTスタッフはご支援させていただきます。最後に・・・「NST」何とも「S」相談してね、TII食べること」。

忘年会のシーズンになってきました。飲み過ぎ、食べ過ぎに注意しましょう。そして、宴会の帰りにすべてが転ばないよう、ご注意ください。酔っぱらって転ぶと次の日痛いですよ。

編集後記



段々寒さが厳しくなってきましたが、インフルエンザはワクチンの接種で予防しましょう。

今年こそ、今年こそJ1へ。あと一歩だコンサドーレ札幌。薬剤部 梶原 徹

いつもよりも暖かい秋でした。やっぱり地球温暖化の影響なんでしょう。田口 暢秀